

仙台スタートアップ戦略



2022年7月

仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会

はじめに

「1000年に一度」の瞬間を経験し、深い喪失と悲しみに覆われた東北。

幸せとは。豊かさとは。生きる、とは。

震災後、地域が抱えていた課題が加速して顕わになる中で、
東北の中心都市・仙台には、そんな問いに真正面から悩み、
自らの手で社会を変えようとする人が集まるようになりました。

ここには、挑戦できる土壌をつくる人がいます。

「東北を、挑戦者たちの理想郷にする」

「社会課題の解決に取り組む人が、ビジネスとして活動を継続できる支援を」

志ある起業家が集まる「場」を開いた人がいます。

「世の中にインパクトを与える起業家を育てるコミュニティに」

「『何かやってみよう』と思う熱量の高い人が、その一歩を踏み出せる場所を」

未来への種を蒔く人がいます。

「背中を押してあげる機会をつくるのが、大人の役目」

「起業家精神を育て、起業家がまた新たな起業家を育てるエコシステムをつくる」

社会をよりよく変えようとする起業家がいます。

「諦めていた人が希望を取り戻して生きられる商品を」

「誰もが自分らしく働ける社会を実現するサービスを」

「研究を、地球の環境問題の解決のために製品化する。」

東日本大震災の400年前に発生した、慶長大津波。

その直後に仙台藩祖伊達政宗は造船を命じて外交使節団を組織し、
復興のさなか、船はヨーロッパを目指して大航海に乗り出しました。
痛みを経験したこの地域からは、世界を変える起業家が生まれます。
「1000年に一度の震災は、1000年に一度の変化を仙台に生み出した」

変革の渦は、仙台から始まります。

目次

第1章 背景

- 1 策定の背景4
- 2 スタートアップ支援による効果.....5

第2章 スタートアップ戦略の基本方針

- 1 仙台・スタートアップ戦略の目指す姿と基本方針7
- 2 スタートアップ・エコシステム拠点都市・仙台の戦略.....8
- 3 仙台・スタートアップ戦略の支援するスタートアップ像.....9
- 4 「仙台らしさ」があるスタートアップ・エコシステムの推進 10
- 5 スタートアップ・エコシステム拠点都市・仙台の課題..... 11

第3章 スタートアップ戦略の施策と体系

- 1 仙台・スタートアップ戦略の支援施策の体系図 13
- 2 ヒト・モノ・カネ・情報の支援の充実に向けて 14

第 1 章 背景

1 策定の背景

2019年12月に連続的にスタートアップ企業を生み出す仕組みであるスタートアップ・エコシステムの形成を加速させるため、仙台市長を会長とする仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会を設立しました。

2020年7月には内閣府が推進する「スタートアップ・エコシステム拠点都市」において、「推進拠点都市」に選定され、政府や民間サポーターによる支援を受けながら、スタートアップ・エコシステムの形成を推し進めてまいりました。

この度、仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会での議論を踏まえ、仙台のスタートアップ・エコシステムを取り巻く現状と課題、目指すべき方向性等を明確にし、戦略的に推進していくための指針となる「仙台スタートアップ戦略」を策定する運びとなりました。

本戦略は仙台の課題・ゴールに沿った形で構築すると同時に、東北地域のエコシステム形成に資する資源の集積のために策定します。



東北地域の産学官金が一体となってスタートアップ・エコシステムを形成・発展し、課題先進地域から国内外の課題解決に資するスタートアップ企業の創出を加速。地域外との連携も強化し、東北地域を課題先進地域から課題解決先進地域へ。

2 スタートアップ支援による効果

社会課題の解決

東日本大震災後、仙台・東北地域では「誰かのために」「地域のために」「復興のために」といった利他的マインドによる起業の動きが活発化しました。

この多様な社会課題が表面化していることをチャンスととらえ、課題解決と経済成長を両立していく取組みを、様々な機関が後押ししていくことで、東北地域のソーシャル・ビジネスが拡大してきました。

一例として、介護・福祉事業利用者の送迎車両の空き時間を活用して、地域の要支援・要介護の高齢者を対象に相乗りサービスを提供するソーシャル・ビジネスの組成により、地域交通の社会課題に対して、社会起業家の取り組みで改善されました。

さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大によって顕在化した様々な課題への対応や、ウィズコロナ／アフターコロナの社会の変化への対応において、イノベーションの担い手としてのスタートアップ企業の重要性が高まっています。

新たな産業の創出

大学等に潜在する研究成果を掘り起こし、ビジネス化を後押しすることで、新たな産業を創出することができます。これにより、東北地域の雇用の創出や税収の増加が期待でき、都市としての強化につながります。

世界的企業である Google 社もスタンフォード大学発スタートアップ企業です。検索エンジンの中心的技術「ページランク」の基となる技術は、創業者が在学中に発案し、大学がさまざまな形で支援を行ったことで生み出されました。また、ユニコーン企業であるクリーンプラネット社は、東北大学発スタートアップ企業です。世界初の画期的な「量子水素エネルギー」の実用化を目指し、安価なクリーンエネルギーとして世界的に大きな期待を集めています。

多様な働き方の選択肢の拡大

地域にスタートアップ企業が増加することで、新たな働き方の選択肢として起業やスタートアップ企業への就職・転職を選択する人が増え、組織に縛られない働き方や UIJ ターンといった首都圏一極集中の是正につながる可能性があります。

第2章 スタートアップ戦略の基本方針

1 仙台スタートアップ戦略の目指す姿と基本方針

目指す姿（ゴール）

仙台・東北から世界を変える「スタートアップ」が生まれ、
世界中からソーシャルイノベーターが集う都市へ
SENDAI - Capital of Social Innovation -

活動理念（ミッション）

新しい価値を持続的に産み出すスタートアップ・エコシステムを
産官学金労言で構築し、社会課題解決に挑戦する人々と伴走して
仙台・東北における地域課題の解決と地域経済の活性化を実現する。

当協議会が支援する「スタートアップ」像

仙台の強み・特徴（「仙台らしさ」）を活かしつつ、
社会的・経済的インパクトの創出に挑戦し続ける東北の法人・個人

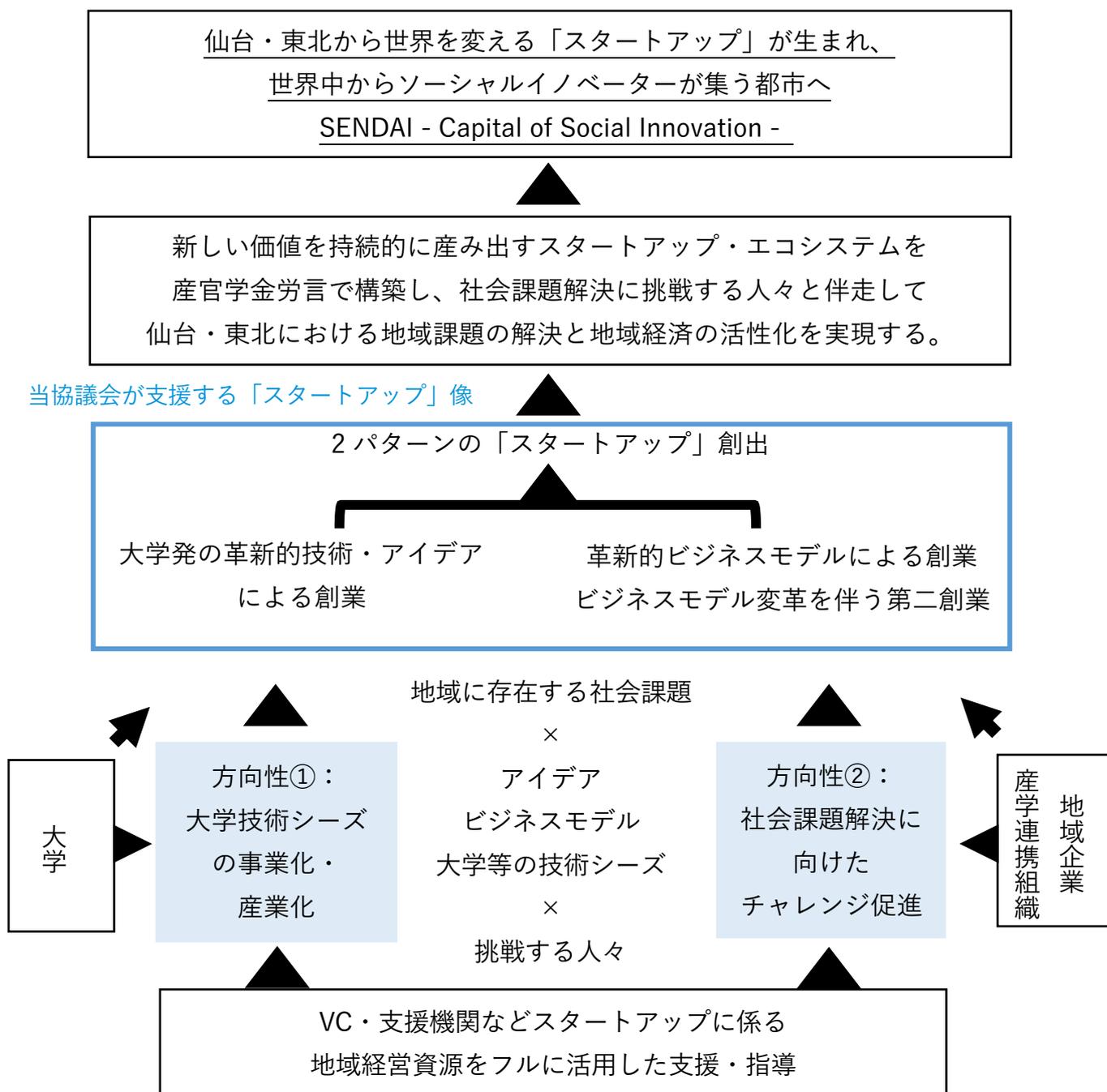
施策の基本方針

本協議会では、仙台・東北から世界を変える「スタートアップ」が生まれ、世界中からソーシャルイノベーターが集う都市の実現に向けて、スタートアップ企業の成長に必要な不可欠な以下4点に対する施策を重点的に実施します。

- ・モノ（支援設備の充実、マッチング機会の提供等）
- ・ヒト（人的支援、起業家教育等）
- ・カネ（ファイナンス支援等）
- ・情報（支援施策の見える化、情報発信等）

2 スタートアップ・エコシステム拠点都市・仙台の戦略

本協議会では、経済的持続性を基盤として社会課題解決を目指す組織の支援を「大学テーマの事業化・産業化」「社会課題解決に向けたチャレンジ促進」を大きな方向性として各プレイヤーが密に連携しながら取り組みます。



3 仙台スタートアップ戦略の支援するスタートアップ像

本協議会では、仙台の強み・特徴(「仙台らしさ」)を活かしつつ、社会的・経済的インパクトの創出に挑戦し続ける東北の法人・個人を支援します。

スタート：「仙台らしさ」がある「スタートアップ」の形成

大学発：世界に伍する社会ニーズがある技術を元に、産業形成

民間発：地域課題の解決しうるテーマに取り組み、志ある地域企業と協業

産学連携：民間のニーズ・人財をもとに、大学にある技術を地域内にて開花

事業化にむけた2つのパターン

創業：

独自のニーズやアイデアを元に、持続的な経済的リターンを前提とした事業を立ち上げる（法人格の選択は問わない）

第二創業：

事業継承元となる企業のアセットを用いつつ、新たに特異な技術やアイデアを組み合わせることで経済的リターンを伴う事業内容へと変革させる

「仙台らしさ」がある
スタートアップ・エコシステムの
推進

継続して達成する目標：

社会的・経済的インパクトの両立

社会的インパクト

仙台・東北における地域課題の解決

経済的インパクト

仙台・東北における地域経済の活性化

ゴール：「仙台らしさ」がある「スタートアップ」類型への成長

具体的には下記2パターンを想定しています。

パターン①

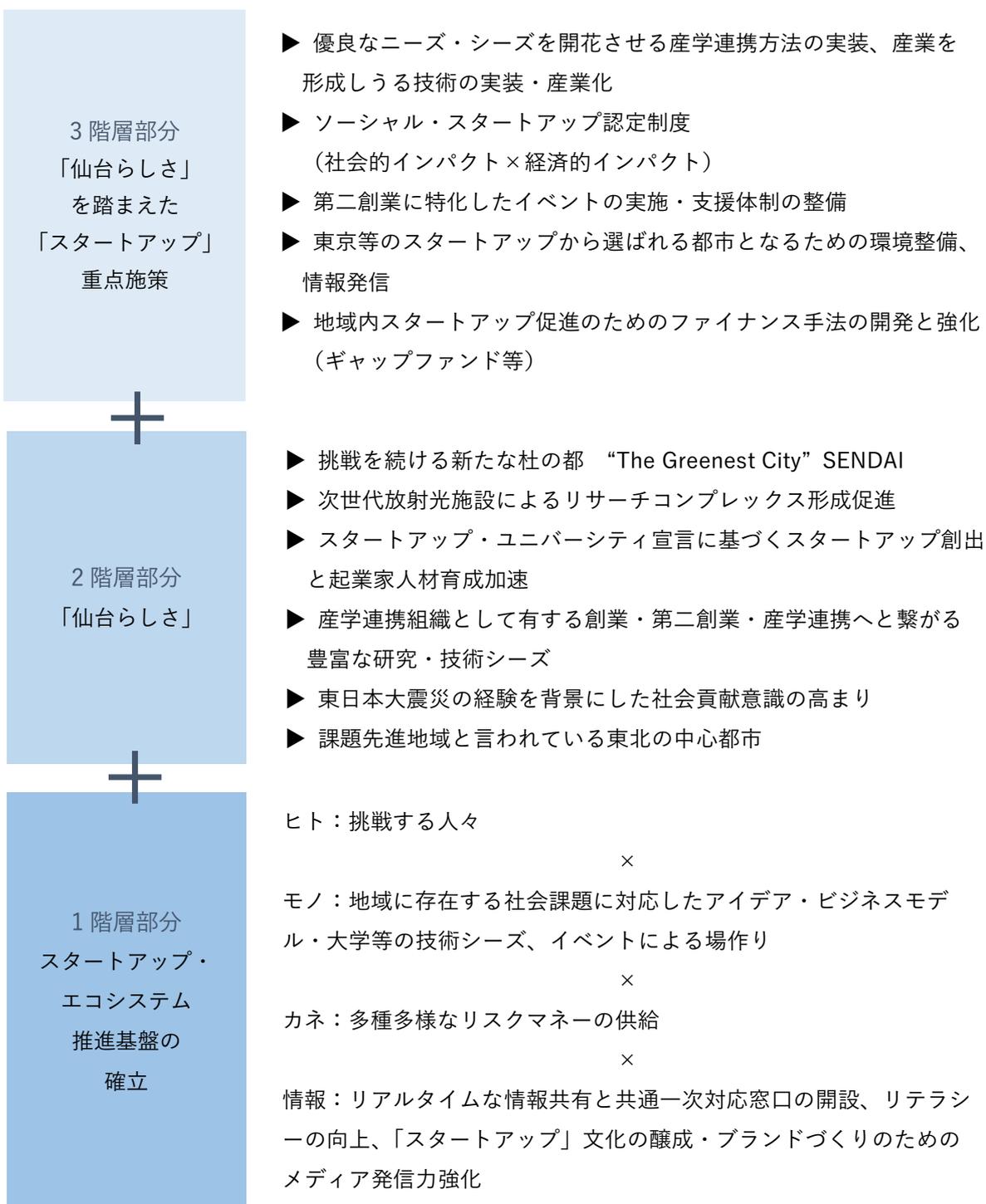
社会課題の解決を第一義に展開し、経済的持続性と社会インパクトを備えた「スタートアップ」（地域企業との事業資本提携・パートナーシップ連携を想定）

パターン②

パターン①のうち特に急成長・急拡大を志向し、地域を超えた、より広い市場を目指す「スタートアップ」（株式IPO・M&Aを想定）

4 「仙台らしさ」があるスタートアップ・エコシステムの推進

本協議会では、会員の資源を結集することで、根底となる推進基盤に加えて「仙台らしさ」を元に重点的に施策を行うことにより、社会課題解決に挑戦する人々との伴走体制を確立します。



5 スタートアップ・エコシステム拠点都市・仙台の課題

課題1：ビジネス人材の確保【ヒト】

スタートアップ企業の成長において、創業者に加え、営業や経営等を担うビジネス人材（CXO）や専門的な知識を持つスタッフ、バックオフィス等の事務人材の確保が重要となります。しかし、これらの人材は首都圏に多く、仙台市では十分な採用が難しい状況です。

課題2：スタートアップが集積するインキュベーション施設の充実【モノ】

スタートアップ企業を支えるためには、活動・交流拠点が不可欠です。仙台駅を中心とする中心市街地等アクセスの良いエリアでは、コワーキングスペース等が徐々に開設されていますが、大規模なスタートアップ支援施設や、ウェットラボ等を備えたインキュベーション施設が不足しており、スタートアップ企業が市外へ流出するケースが見られます。

課題3：資金調達手段の確保【カネ】

仙台市の強みであるソーシャル・スタートアップは、社会課題解決に重きを置くため、ITスタートアップと比べると資金調達が難しい傾向にあります。また、大学等の技術シーズを用いたディープテック・スタートアップは、基礎研究の成果をもとに事業が始められることが多く、製品化までのリードタイムが長いことから資金調達が難しい傾向にあります。さらに首都圏に比べると、スタートアップ企業へ投資を行うベンチャーキャピタル等も不足しています。

課題4：産学官金の連携強化【情報】

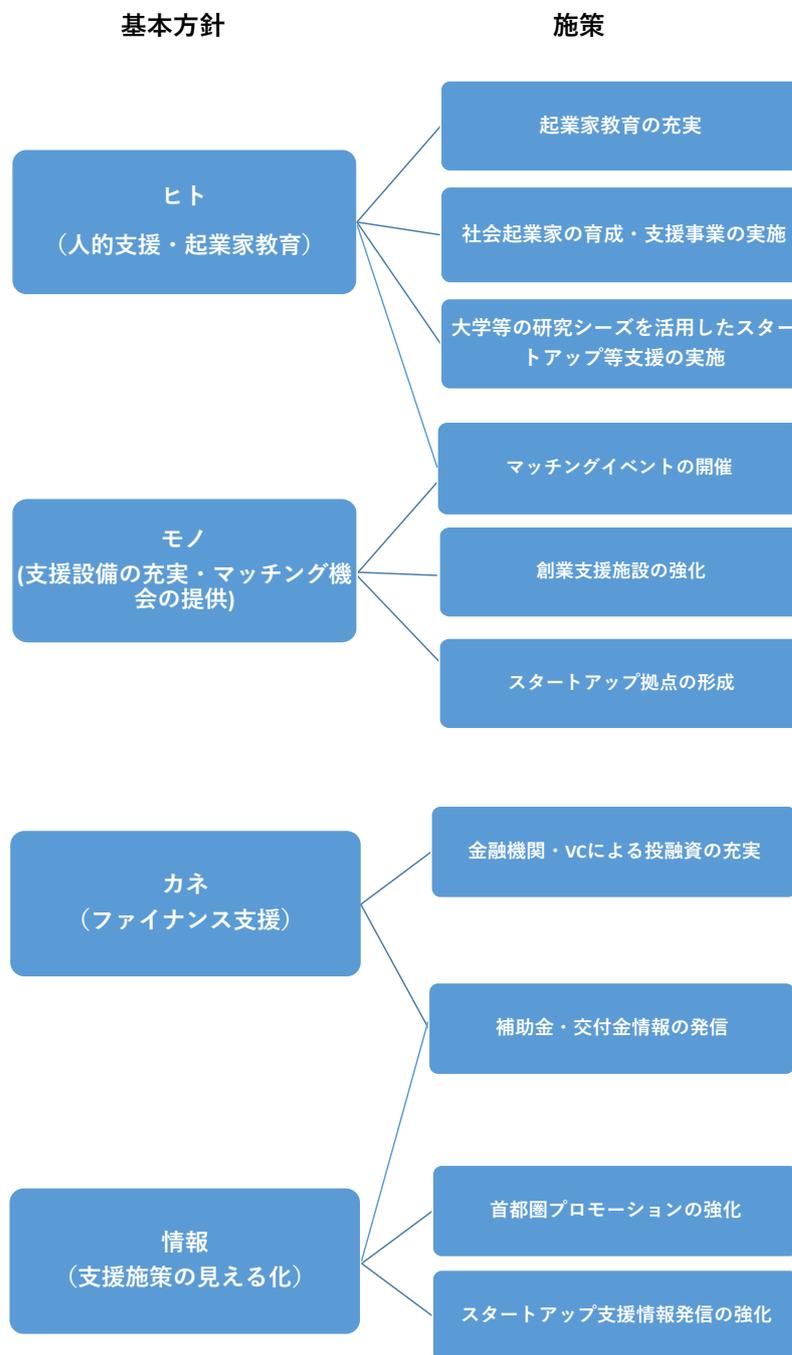
スタートアップ企業が成長するためには、多様な支援者が地域に集い、コミュニティが形成されていることが重要です。そのためには産学官金が連携し、スタートアップ企業の育成・支援に取り組む機運が醸成され、認知されていくことが必要です。スタートアップ・エコシステム拠点都市の選定により地域の支援者間での連携は促進されつつありますが、まだまだ十分とは言えません。スタートアップ・エコシステム拠点都市として成長するためには、積極的な情報発信とともに産学官金での連携をさらに充実させる必要があります。

課題5：起業に関する情報発信の強化【情報】

「ビジネスアイデアはあるけれど、何から手をつければいいのか分からない」、
「起業後、思うように売り上げが立たない…」など、起業にあたって直面するさまざまな課題が起業のハードルを上げています。さらに、起業家と交流する機会や起業について考えるきっかけがあまりないために、そもそも起業をするという発想に至らないケースもあります。

第3章 スタートアップ戦略の施策と体系

1 仙台スタートアップ戦略の支援施策の体系図



2 ヒト・モノ・カネ・情報の支援の充実に向けて

施策 1：起業家教育の充実

若いうちから起業マインドを向上させるため、スタートアップ企業経営者等を講師とした起業セミナーや、社会課題解決に向けた起業体験ワークショップ等の起業家教育の充実を図ります。

例：【東北大学】アントレプレナーシップ人材育成プログラム

【東北経済産業局】起業家教育事業

【仙台経済同友会】大学生向け起業教育

【仙台市】小中高生向け起業体験ワークショップ

施策 2：社会起業家の育成・支援事業の実施

社会起業家や潜在層等に対し、メンタリングを含めた個別集中支援プログラムを実施します。加えて、これまで輩出してきた社会起業家のソーシャル・インパクトを拡大すべく、インパクト投資家とのマッチング等さらなる支援を実施します。

例：【仙台市】東北ソーシャル・イノベーションアクセラレーター（SIA）

【IMPACT Foundation Japan】Creative Response Social Innovation School

施策 3：大学等の研究シーズを活用したスタートアップ等の支援の実施

ICT や大学の研究成果等を活用し、社会課題の解決を目指しながら事業の拡大を目指すスタートアップを創出し、成長支援を行うプロジェクトを実施します。

例：【中小企業基盤整備機構】東北大学連携ビジネスインキュベータ（T-Biz）

【東北大学】東北大学ビジネスインキュベーションプログラム（GAP ファンド）

【仙台市】社会課題解決ビジネス創出プログラム「SENDAI NEW PUBLIC」

施策 4：マッチングイベントの開催

東北のスタートアップ企業に対して、事業会社や VC と協業等に向けたマッチングイベントを開催することで、事業の成長やスタートアップ支援者との関係強化を図ります。

例：【七十七銀行】オープンイノベーションピッチ

【仙台市】起業家応援イベント「SENDAI for Startups!」

【東経連ビジネスセンター】東北・新潟産学官金サロン

施策 5：創業支援施設の強化

創業支援施設において、スタートアップ企業が抱える経営課題を土業専門家へ相談できる体制の構築や、スタートアップ企業向けのイベントを開催することで、さらなる利活用の促進を図ります。

例：【仙台市産業振興事業団】 仙台市起業支援センター（アシ☆スタ）
【東北大学】 青葉山ガレージ、川内ガレージ
【IMPACT Foundation Japan】 INTILAQ 東北イノベーションセンター

施策 6：スタートアップ拠点の形成

東北のスタートアップ企業が集積し、相談・活動しやすい環境を整えます。また、アシ☆スタ等の創業支援施設とも連携し、ワンストップでのサポートを実現します。

例：【東日本電信電話】 アーバンネット仙台中央ビル

施策 7：金融機関・VC による投融資の充実

本協議会会員である金融機関からのスタートアップ企業に対する投融資や、VC からの出資の促進を図ります。

例：【MAKOTO キャピタル】 VC ファンドの運営、投資の実行
【日本政策金融公庫】 創業者向け融資制度を活用した資金調達支援
【七十七銀行】 <七十七>スタートアップ・サポートデスク

施策 8：補助金・交付金情報の発信

補助金・助成金関連情報を本協議会の支援機関同士で共有し、ホームページや SNS、イベント等で発信することで利活用の促進を図ります。

例：【中小企業基盤整備機構】 資金調達セミナーの実施
【七十七銀行】 創業応援パッケージの提供
【仙台市産業振興事業団】 「せんだい E 企業だより」での情報発信

施策 9：首都圏プロモーションの強化

首都圏の支援者に向けて、東北のソーシャル・スタートアップのプロモーションイベントを開催し、情報発信することで、ソーシャル・スタートアップへの関係人口の増加を図るとともにインパクト投資へとつなげます。

例：【仙台市】「TOHOKU STARTUP NIGHT」等首都圏イベント開催
【東北経済産業局】「J-Startup TOHOKU」による支援

施策 10：スタートアップ支援情報発信の強化

東北のスタートアップ企業に向けて、仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会の支援情報一覧をポータルサイトから発信するとともにイベント等で PR することで、各支援メニューの利活用を促進します。

例：【宮城県】「みやぎ創業ガイド（ホームページ）」による発信
【仙台市】起業支援ポータルサイト「奥羽の杜」による発信

〈参考〉 協議会会員の支援施策一覧（令和3年度）

各団体の取り組みの力を結集することで、スタートアップ・エコシステムの強化を図ります。

① 1号会員による主な支援施策

	具体的な施策	主な支援者	
1	ヒト（人的支援・起業家教育）	① 販路拡大・協業先の探索	七十七銀行
		② 起業アイデアのブラッシュアップサポート	経済連合会・同友会・中小機構
		③ アクセラレーションプログラムの提供	IMPACT Foundation JAPAN MAKOTO
		④ 各士業による無料相談	産業振興事業団
		⑤ 東北大学ビジネスアイデアコンテスト	東北大学
		⑥ 大学生向け起業教育	仙台経済同友会・東北大学
2	モノ（支援設備の充実・マッチング機会の提供）	⑦ T-Bizの運営	中小機構
		⑧ マッチングイベントの開催	経済連合会・同友会・七十七銀行
		⑨ OIプラットフォームによる支援者との繋ぎ	東北経済局
3	カネ（ファイナンス支援）	⑩ GAPファンド支援	東北大学
		⑪ 投資・融資による資金提供	七十七銀行
		⑫ 補助金情報の共有	宮城県・仙台市・東北経済局
		⑬ VCファンド、非上場型投資の実行	MAKOTO
4	情報	⑭ ポータルサイトでの支援情報発信	宮城県・仙台市
		⑮ 首都圏プロモーションイベントの開催	仙台市

② 協議会会員による主な支援施策（Seed期）

ヒト（人的支援・起業家教育等）

【東北経済産業局】

- ・ 起業家教育事業

【IMPACT Foundation Japan】

- ・ Creative Response Social Innovation School
- ・ 女川町創業本気プログラム

【東北大学】

- ・ 東北大学スタートアップカフェ
- ・ 東北大学ビジネスアイデアコンテスト
- ・ シード・アクセラレーションプログラム
- ・ ドイツ・ベルリン開催のスタートアップピッチコンテスト国内予選会の実施

【弘前大学】

- ・弘大じょっぱり起業家塾の実施

【みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム】

(東北大学、弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、新潟大学、長岡技術科学大学、宮城大学等)

- ・みちのくイノベーションキャンプ

【仙台市】

- ・東北ソーシャル・イノベーションアクセラレーター (SIA)
- ・東北グロースアクセラレーター (TGA)
- ・社会課題解決ビジネス創出支援プログラム (SENDAI NEW PUBLIC)
- ・起業啓発・促進イベント (SENDAI for Startups!)

【仙台商工会議所】

- ・創業ハンズオン支援

モノ (支援設備の充実・マッチング機会の提供等)

【仙台市産業振興事業団】

- ・仙台市起業支援センター (アシ☆スタ)
- ・国家戦略特区仙台市開業ワンストップセンター

【中小企業基盤整備機構】

- ・東北大学連携ビジネスインキュベータ (T-Biz)
- ・ベンチャー企業を対象とした日本最大級のビジネスマッチングイベント

【東日本電信電話】

- ・スマートイノベーションラボ仙台
- ・五橋コワーキングスペース

カネ (ファイナンス支援等)

【宮城県】

- ・スタートアップ加速化支援補助金

【東北大学】

- ・東北大学ビジネスインキュベーションプログラム（東北大学 GAP ファンド）
- ・みちのく GAP ファンド（地域 GAP ファンド）

【東北大学ベンチャーパートナーズ】

- ・国立大学発研究成果を活用する事業者に対する投資、ハンズオン支援の実施

【中小企業基盤整備機構】

- ・資金調達セミナーの実施

【七十七銀行】

- ・創業応援パッケージの提供

【日本政策金融公庫】

- ・創業者向け融資制度を活用した資金調達支援

情報（支援施策の見える化、情報発信等）

【宮城県】

- ・みやぎ創業ガイド（ホームページ）による発信

【仙台市】

- ・起業支援ポータルサイト「奥羽の杜」による発信

【仙台商工会議所】

- ・創業支援セミナーの実施

【中小企業基盤整備機構】

- ・雇用契約・労務管理セミナーの実施

【仙台市産業振興事業団】

- ・東北地域ものづくり企業連携事業による発信

③ 協議会会員の支援概要 (Seed 期以降)

ヒト (人的支援・起業家教育等)

【MAKOTO キャピタル】

- ・スタートアップ企業からの起業・投資相談・投資実行・ハンズオン支援
- ・東北・イスラエルスタートアップ グローバルチャレンジ プログラム

【東北大学】

- ・地域産業支援アドバイザー制度の活用

【東北経済産業局】

- ・J-Startup TOHOKU による支援

【パソナ】

- ・人材紹介、顧問・エグゼクティブサーチの提供

モノ (支援設備の充実・マッチング機会の提供等)

【東北大学】

- ・IIS 研究センター (情報知能システム研究センター)
- ・地域イノベーション研究センター (RIPS/RIAS)
- ・東北地域の中小企業対象としたイノベーションセミナー

【中小企業基盤整備機構】

- ・大学の研究シーズと連携した新ビジネス創成支援 (T-Biz)

カネ (ファイナンス支援等)

【七十七銀行】

- ・成長マネーの供給
- ・公的支援制度の活用支援
- ・資本市場を活用した成長支援

【MAKOTO キャピタル】

- ・VC ファンド「ステージアップファンド投資事業有限責任組合」の運営、投資の実行

【日本政策金融公庫】

- ・ 創業者向け融資制度を活用した資金調達支援

【弘前大学】

- ・ 弘前大学グロウカルファンド(Grow×Local)

情報（支援施策の見える化、情報発信等）

【宮城県】

- ・ みやぎ創業ガイド（ホームページ）による発信

【仙台市】

- ・ 起業支援ポータルサイト「奥羽の杜」による発信

【仙台商工会議所】

- ・ 創業支援セミナーの実施

【中小企業基盤整備機構】

- ・ 雇用契約・労務管理セミナーの実施

【仙台市産業振興事業団】

- ・ 東北地域ものづくり企業連携事業による発信

〈参考〉 用語集

【ア行】

- ・アクセラレーションプログラム

起業後のスタートアップ企業の成長を促すために、大企業や投資家等が事業計画に助言や取引先に引き合わせることを行う制度。

- ・インキュベーション

起業や新事業の創出を支援し、その成長を促進させること。

- ・エコシステム

ビジネスにおける生態系。複数の企業と支援機関等が商品開発や事業活動等でパートナーシップを組み、互いの知識や資源を生かしながら、消費者や社会を巻き込み、広く共存共栄していく仕組み。

【カ行】

- ・ギャップファンド

ニーズや関心が見えている事業化の可能性が高い研究に対して、少額の開発資金を提供し、大学の研究成果の技術移転や大学発スタートアップの創出を促進するもの。

- ・経済的インパクト

ソーシャル・スタートアップ等の事業や活動の成果として生じた売上、利益、雇用数、納税額等の金銭的な成果のこと。

【サ行】

- ・CXO（シーエックスオー）

「Chief＝組織の責任者」と「X＝業務・機能」と「Officer＝執行役」からなる経営用語で、企業活動における業務や機能の責任者の総称。最高経営責任者（COO＝Chief Operating Officer）、最高財務責任者（CFO＝Chief Financial Officer）など。

- ・シーズ

企業・大学・研究機関等が新しく開発、提供する特別な技術や材料のこと。

- ・社会的インパクト

短期、長期の変化を含め、ソーシャル・スタートアップ等の社会課題の解決を目指す事業や活動の成果として生じた社会的、環境的な変化のこと。社会課題の解決による行財政支出の減少等。

- ・スタートアップ・エコシステム

大企業や大学等の研究機関、自治体等の公的支援機関等がネットワークを形成し、スタートアップを生み出しながら発展していくシステムを指す。自然が循環していく生態系（エコシステム）と類似していることからスタートアップ・エコシステムと呼ばれる。

- ・ソーシャルイノベーター

新たな発想と明確なビジョンを持ち、国や行政、企業、NPO等の団体と組織を超えたチームを組成し、社会課題の解決に向けて活動を推進できるリーダーのこと。

- ・ソーシャル・スタートアップ

スタートアップ企業のうち貧困解決等の福祉分野や、環境負荷軽減等の、特に社会課題解決に重きを置いているスタートアップ企業。

【タ行】

- ・ディープテック

大学や研究機関で研究開発された技術。またはそうした技術を基にした製品・サービスを提供する企業のこと。

【ハ行】

- ・ベンチャーキャピタル

有望なベンチャービジネスに対して、株式の取得等によって資金を提供する企業。一般的にVCとも呼ばれる。

- ・ページランク

Googleが検索アルゴリズムに反映させている評価指標。現在もGoogleの内部でコンテンツの重要度を測る指標の1つ。

〈参考〉 仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会参画会員名簿

(団体名 50 音・アルファベット順・2022 年 6 月末時点)

第 1 号会員(発起人団体・12 団体)	
組織名称	備考
仙台市	会長組織
国立大学法人 東北大学	副会長組織
一般社団法人 東北経済連合会	副会長組織
一般社団法人 仙台経済同友会	副会長組織
経済産業省 東北経済産業局	
株式会社 七十七銀行	
公益財団法人 仙台市産業振興事業団	
仙台商工会議所	
独立行政法人 中小企業基盤整備機構 東北本部	
宮城県	
一般社団法人 IMPACT Foundation Japan	
株式会社 MAKOTO	

第 2 号会員(36 団体)	
組織名称	備考
公立大学法人 会津大学	
国立大学法人 秋田大学	
特定非営利活動法人 アスヘノキボウ	
国立大学法人 岩手大学	
財務省 東北財務局	
株式会社 ショーケース	
総務省 東北総合通信局	
通研電気工業 株式会社	
株式会社 帝国データバンク 仙台支店	
東京海上日動火災保険 株式会社	
東京中小企業投資育成 株式会社	
東北芸術工科大学	
東北大学ベンチャーパートナーズ 株式会社	

東北大学ナレッジキャスト 株式会社	
一般社団法人 東北ニュービジネス協議会	
国立大学法人 長岡技術科学大学	
国立大学法人 新潟大学	
株式会社 日本クラウドキャピタル	
株式会社 日本政策金融公庫 仙台支店	
独立行政法人 日本貿易振興機構(ジェトロ)仙台事務所	
株式会社 パソナ	
東日本電信電話 株式会社(NTT 東日本)	
国立大学法人 弘前大学	
公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構	
公益社団法人 福島相双復興推進機構	
国立大学法人 福島大学	
合同会社 ブルーサークル	
三井住友海上火災保険 株式会社	
南相馬市	
公立大学法人 宮城大学	
国立大学法人 山形大学	
株式会社 CAMPFIRE Startups	
一般社団法人 EO North Japan	
EY 新日本有限責任監査法人 仙台事務所	
KDDI 株式会社	
株式会社 NTT ドコモ東北支社	

仙台スタートアップ戦略

編集・発行

仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会事務局

(仙台市経済局産業政策部産業振興課創業支援係)